





(5)その他、自殺の「原因・動機」が、東日本大震災の直接の影響によるものであることが遺族等の供述その他により判明したもの。

### 1. 男女別の震災関連自殺者数年次推移(単位:人)

---

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計
男性	42	18	23	11	13	14	3	124
女性	13	6	15	11	10	7	0	62
合計	55	24	38	22	23	21	3	186

---

震災直後の平成23年と2年後の平成25年に山があります。平成23年は、約半年の集計であるにもかかわらず、特に男性の自殺者数が42人と突出しており、女性の約3倍の自殺者数でしたが、近年は男女差が縮まりました。それでも、総計では、男性は女性の約2倍の自殺者数となっています。震災直後よりは減少しましたが、ここ3年ほど横ばいで目立った減少になっていない点が気になります。

### 2. 年齢別の震災関連自殺者数年次推移(単位:人)

---

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計
20歳未満	1	0	0	1	0	0	0	2
20歳代	4	2	4	1	1	1	1	14
30歳代	4	4	3	1	0	4	0	16
40歳代	4	3	6	4	4	4	0	25
50歳代	11	5	13	5	2	4	2	42
60歳代	19	5	2	7	5	5	0	43
70歳代	7	2	3	2	7	2	0	23
80歳以上	5	3	7	1	4	1	0	21
不詳	0	0	0	0	0	0	0	0

---

震災直後の平成23年は50代と60代の方の自殺が11人と19人で多く、特に60代の自殺者数は突出しています。50代は震災2年後の平成25年には震災直後よりも多い13人が自殺で亡くなっています。総計を見ても、50代と60代の自殺者数が他の年代よりも突出して多くなっています。

### 3. 職業別の震災関連自殺者数年次推移(単位:人)

---

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計
自営業者	10	3	1	1	2	1	2	20

---

被雇用者	13	5	10	3	3	7	0	41
無職	32	16	27	18	18	13	1	125

一般的な傾向と同様、無職者が自営業者、被雇用者よりも大幅に多い割合を占めています。自営業者は平成23年には10人が自殺で亡くなっていますが、その後は年間数人で低く推移しています。被雇用者は平成25年にも震災直後と同じ程度に自殺者がありましたが、その後年間数人に減りました。無職者は高いレベルで推移していましたが、近年減少傾向がみられるようになっています。

#### 4. 無職者内訳の震災関連自殺者数年次推移(単位:人)

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計
学 生	1	0	0	1	1	0	0	3
主 婦	3	0	6	3	1	2	0	15
失 業 者	6	3	3	1	0	3	0	16
利子生活者	0	0	0	0	2	0	0	2
年金生活者	14	7	7	6	10	7	0	51
その他無職者	8	6	11	7	4	1	1	38

無職者の内訳をみますと、多くを年金生活者とその他無職者(浮浪者など)が占めています。全国の統計と比較すると、学生の割合が低く、失業者と年金生活者の割合が高いようです。

#### 5. 動機・原因別の震災関連自殺者数年次推移(単位:人)

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計
家庭問題	11	5	5	5	6	5	1	38
健康問題	17	11	22	11	13	13	1	88
経済問題	18	5	9	3	2	4	0	41
勤務問題	7	2	5	2	0	4	1	21
男女問題	0	0	1	1	1	1	0	4
学校問題	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	10	4	3	1	2	3	2	25
不 詳	16	5	8	6	8	4	0	47

全体としては健康問題が最も原因として多くあげられている点は全国の自殺統計と同様ですが、平成23年には経済問題が健康問題を上回っていました。また、学校問題がまったく原因としてあげられない点も震災関連の統計の特徴であるかと思えます。



て、自分が生きているよりも死んだ方が価値がある」という考えにたどり着いてしまいます。「所属感の減弱」とは、「孤独」や「社会的疎外」とほぼ同じ意味で、家族や仲間の輪、価値ある集団から疎外されているという感覚です。この2つを同時に体験したとき、命にとって重要なつながりのすべてが断ち切られ、死への願望が生じるのであると自殺の対人関係理論は述べています。

-----  
さまざまな自殺の研究において自殺のリスクを高める要因が数多くあげられていますが、それらはこの理論によれば、上記の「自殺の潜在能力」「負担感の知覚」「所属感の減弱」のいずれかに該当するということになるでしょう。「所属感の減弱」が自殺を成立させる要因であるという指摘を読みますと、東日本大震災以来たびたび言われる「絆」の大切さをさらに感じるような気がします。

\*\*\*\*\*

### 【3】お知らせ

◇ 精神保健福祉センターでは、こころの電話相談を次の時間帯で行っています。

月曜から金曜日 9:00～21:00

土曜日曜祝日(12月29日～1月3日を除く) 10:00～16:00

Tel:0570-064-556

※ご相談の電話が集中しますと、つながりづらい状態になりますがご了承ください。

◇ HP・携帯版 HP をご覧ください

北海道地域自殺対策推進センターの HP を開設しています。最新の北海道の状況を掲載しており、より情報を見やすく、分かりやすくお伝えできるよう心がけています。

パソコン HP URL:<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/jisatutaisaku.htm>

また、携帯電話で見ることができる携帯版 HP も開設しています。警察庁および北海道警察から公表された統計資料をもとに、北海道における自殺の状況を掲載しています。こちらも併せてご覧ください。

携帯 HP URL:<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/i/joukyou.htm>

\*\*\*\*\*

### 【4】編集後記

皆様こんにちは。

春分を過ぎ、昼間の時間が日に日に長くなって春の息吹を感じる今日この頃です。

今年度の Andante は今号が最後となります。新任編集員も1年経って、もう不慣れを言い訳にはできないなど気持ちを新たに引き締めています。来年度も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

なお、2月28日配信の Andante Vol.92 において、Vol.のナンバーと配信日付に誤りがありました。  
お詫びを申し上げますとともに、下記のとおり訂正させていただきます。

H29.1.31 → H29.2.28

Vol.091 → Vol.092

いつもご愛読ありがとうございます。

次号 Vol.94 は、2017年4月末に配信予定です。

＊お問い合わせ先＊

北海道立精神保健福祉センター

札幌市白石区本通16丁目北6番34号

Tel 011-864-7121

Fax 011-864-9546

URL <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/>

Mail [hofuku.seishin1@pref.hokkaido.lg.jp](mailto:hofuku.seishin1@pref.hokkaido.lg.jp)